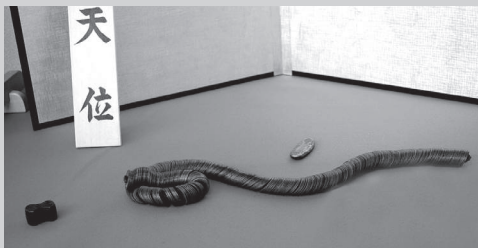


平成25年

新春飾り物展

●干支「巳」



- ◇天位 「三すくみ」 星文達守(大新町2)
- ◇地位 「蛇の衣」 打保三千雄(上岡本町3)
- ◇人位 「蛇つかい」 森下勇(桐生町5)
- ◇飾物同好会賞 「道成寺」 三橋恵美子(川原町)
- ◇佳作 「目覚め」 直井真(大新町1)
「道成寺の鐘」 岡本稔(八幡町)

去る一月十二日(土)～十四日(月・祝)に「新春飾り物展」を開催し、多数の市民の皆様が来場されました。
今回は、一般作品七十九点と、未成年を対象とした「ヤングチャレンジ部門」作品五十三点を展示しました。審査の結果は以下の通りです。(敬称略)

●歌会始「立」



- ◇天位 「大空に聳える東京タワースカイツリー」 山腰末宏(花里町5)
- ◇地位 「立つ鳥」 水口博武(八幡町)
- ◇人位 「旅立ち」 蓑田祐三(天満町6)
- ◇佳作 「立春(春のめぶき)」 土井一恵(天満町6)
「旅立ち」 川村孝一(八幡町)
「立春大吉」 野澤竜弥(弥頭町)

●ヤングチャレンジ部門

- ◇入賞(斐太高校) 「蛇口」 木村眞子
「睨まれた蛙」 今井紅樹
「コブラ」 中居望
「金のぬけがら」 米澤旭
- ◇入賞(西高校) 「蛇」 今井裕貴
「巳」 青木潤奈
「シンプルな巳」 上田萌絵
「蛇」 中川涼太

来年のテーマは干支「午」、歌会始の勅題「静」です。皆様のご応募をお待ちしております。

第18回 高山市近代文学館企画展 「江馬修とその周辺」 2月16日(土)・17日(日)

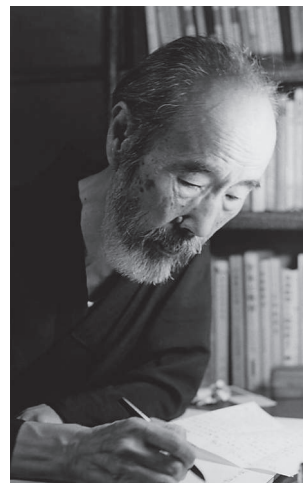
高山市文化協会では、郷土の文学者の作品を市民の皆様を紹介しながら、高山市の文学・芸術の振興を図ることを目的に、企画展を毎年開催しています。

◆日時 二月十六日(土)・十七日(日)

午前十時～午後五時(最終日は午後四時まで)

◆場所 高山市図書館「煥章館」一階生涯学習ホール

今回は、『山の民』に代表される作家・江馬修の作品及び原稿・草稿を中心に、その周辺について紹介します。入場無料です。お誘いあわ



「江馬修(えま なかし)」明治二十二年高山生まれ。地役人江馬弥平の四男。田山花袋に学び、大正五年長編「受難者」がベストセラーとなる。

関東大震災後、人道主義から社会主義に移り、「戦旗」に作品を発表。後に高山に戻り、長編歴史小説「山の民」の完成に力を注いだ。昭和五十年没。享年八十五歳。

『山の民』概略
明治維新に揺れる日本、飛騨もその例外ではなかった。新政府より派遣された若き県知事・梅村速水の急進的な改革と、飛騨高山の風習や伝統的制度とが対立する。そして新政策に対し農民一揆が勃発し、梅村は高山を追われる。明治政府は、梅村を罷免し、投獄。翌年、未判決のまま獄中死する。

「岡目(目)」

あの有名な戦場カメラマンのロバート・キャパが撮った「崩れ落ちる兵士」はヤラセのにせ物だったという。スペイン内戦で弾に当たって手を広げて倒れる共和国軍兵士。キャパの代表作だ。

ところが、この写真のいくつかの謎を作家の沢木耕太郎が解いている。沢木によると、この写真はキャパが恋人ゲルダと二人で、共和国軍兵士達を使ってヤラセたもの。敵のいないヤラセの突撃の中で、足を滑らせて倒れた兵士を二人が撮った内の一枚だという。

沢木は実にしつこく関連の土地を回って、綿密な調査で追って行く。これこそがピューリッツ賞ものだと思ふ。文春一月号「キャパの十字架」。

「事実」と「真実」ということを思う。キャパは事実でウソをついたが、戦争の真実に迫ろうとしてやがて戦場で死ぬ。

筆者もアラブ、アフリカ、天安門などで若干の戦場体験がある。しかしウソのない事実はいくらも伝えたいが、戦争の真実に迫ると言い切れる自信はなく、まだ生きている。戦争はいつどこかであり続けている。

〈ガンモン毛筆〉

高山市文化芸術鑑賞事業
飛騨高山文化芸術祭イベント

三遊亭小遊三 & ナイツ

爆笑 寄席



塙 宣之(はなわ・のぶゆき)、土屋 伸之(つちや・のぶゆき)の2人による漫才コンビ。塙は、芸人の「はなわ」の実弟。土屋は、演歌歌手「津島亜希」の息子。同じ大学の落語研究会で知り合い漫才コンビを結成。漫才師としては内海桂子に、落語家としては三遊亭小遊三に師事した。M-1グランプリ決勝に3年連続で出場。塙は、漫才協会の史上最年少の理事。

チケット
好評販売中

昭和22年生まれ。昭和43年に3代目三遊亭遊三に入門。昭和58年、真打昇進と共に「笑点」に出演。演目は多く、同じ噺をくり返すことはない。独自のアレンジを加え、古典落語に時事ネタなどを交えた噺を得意とする。平昭和55年、平成13年に、文化庁芸術祭優秀賞を受賞。平成17年、落語芸術協会(会長 桂歌丸)副会長に就任。

平成25年 **3月6日(水)** 午後7時開演/午後6時30分開場
丹生川文化ホール (丹生川町方) ※駐車場300台 **全席指定**

チケット (一般) **3,000円** (メセナメイト会員) **2,500円** (ジュニア) 18才以下 **1,000円**
販売所 高山市民文化会館(TEL.0577-33-8333)・丹生川文化ホール(TEL.0577-78-2468)

○主催 高山市 / (社)高山市文化協会
○問合せ (社)高山市文化協会(TEL.0577-34-6550) / mail@takayama-bunka.org

高山市文化芸術鑑賞事業

飛騨高山文化芸術祭イベント



箏や尺八などのプロの奏者が奏でる
和楽器の心に響く優雅な音色をお楽しみください。

和楽器 の調べ

世界で活躍する「日本音楽集団」

<出演者>

新保有生(笛) / 阪口タ山(尺八) / 元永 拓(尺八) / 原郷 隆(尺八) / 田野村聡(尺八) / 穂積大志(三味線)
久保田晶子(琵琶) / 熊沢栄利子(箏) / 桜井智永(箏) / 田村法子(箏) / 伊藤麻衣子(箏) / 宮越圭子(十七絃箏)
久本桂子(十七絃箏) / 島村聖香(打楽器) / 山内利一(打楽器) / 苔米地英一(指揮)

平成25年 **3月17日(日)** 午後2時開演/午後1時30分開場
高山市民文化会館(小ホール) **全席指定**

チケット (一般) **2,000円** (メセナメイト会員) **1,700円** (ジュニア) 18才以下 **500円**
販売所 高山市民文化会館(TEL.0577-33-8333)・飛騨市文化交流センター(TEL.0577-73-0180)

○主催 高山市 / (社)高山市文化協会
○問合せ (社)高山市文化協会(TEL.0577-34-6550) / mail@takayama-bunka.org

SAKURAバラフレーズ(秋岸寛久編曲)

桜坂・福山雅治、桜・河口恭吾、さくら(独唱)：森山直太郎、桜：コブクロ、夜桜お七：坂本冬美
古来より日本人は、桜の花の美しさと儚さを和歌や古典音楽の中に詠んできました。そんな「さくら」のポップスを集めた、心地よいメドレーです。

日本の楽器紹介

春の海(箏・尺八)、芽生え(二十絃箏)、平家物語より「那須の与一」(琵琶弾き語り)、江戸屋台囃子～幕間三重～獅子の狂い五段(三味線・笛・打楽器)
それぞれの楽器の特徴を存分に活かした楽曲をお聴きいただくことで、各楽器をより身近にお感じいただけることでしょう。

飛騨によせる三つのバラード(長沢勝俊 作曲)

歩荷(ぽっか)、立円(たちづら)、杉玉(すぎだま)
当国の作曲家であった長沢勝俊が1977年に作曲した作品です。飛騨高山を象徴する風景を箏群と尺八の美しい旋律によって表情豊かに描き出します。

四季の唱歌・民謡より

花、荒城の月、お江戸日本橋、おてもやん、五木の子守唄、八木節
和楽器による演奏で、春待ち遠しいこの季節を彩ります。ぜひ一緒に楽しんでいただければ幸いです。

星夢の舞(吉松隆 作曲)

1.序之舞(じょのまい) 2.流々(るる) 3.喜々(きき) 4.綺羅々(きらら) 5.点々(てんでん) 6.斗々(とと) 7.浮流々(ふるる) 8.旦多(たんた) 9.丁々(てうてう) 10.舞戯之舞(ぶぎのまい)
NHK大河ドラマ「平清盛」音楽担当の作曲家・吉松隆氏が、2002年に邦楽器のために書いた舞踏組曲です。フィナーレの「舞戯之舞」とは、ブギウギのことで、ビッグバンドジャズのような盛り上がりを見せます。

チケット
好評販売中